

美浜町エネルギービジョン改定 概要版

ビジョン改定のポイント

目次

第1章 エネルギービジョン改定の趣旨

1-1 ビジョン策定の背景と目的

1-2 ビジョン改定の背景

⇒エネルギー分野に関する考慮すべき近年の国際社会、国内、県及び周辺自治体の動向を追加

1-3 ビジョン改定の目的

⇒近年のエネルギー分野における社会情勢の変化への対応、再生可能エネルギーの積極的導入、国が進める2050年カーボンニュートラルの実現への貢献を目的としている旨を記載

1-4 ビジョンの位置づけ・計画期間・目標値

⇒嶺南Eコースト計画等の県の計画等との連携を記載
計画期間を2021年度からに変更

第2章 美浜町の現況と課題

2-1 美浜町の特性・強み

⇒若狭湾次世代エネルギーパークの認定等、近年の動向を追記

2-2 美浜町の課題

⇒現行ビジョンからの変更なし

2-3 ビジョンにおけるこれまでの取り組み

⇒前ビジョンにおいて、これまでに実施された取り組みを記載

【主な取り組み】

「きいばす」等での展示設備の導入、太陽光LED街路灯の設置
産業団地調整池への太陽光発電設置、モデル地域による活動計画書の作成、電池推進実証船の開発・実証実験

第3章 美浜町が目指す姿

3-1 ビジョンのコンセプト

⇒現行ビジョンからの変更なし

3-2 美浜町が目指す姿

⇒現行ビジョンからの変更なし

第4章 2030年に向けた施策

4-1 施策の考え方

⇒現行ビジョンからの変更なし(4つの施策の方向性)

4-2 施策の導出

⇒現行ビジョンからの変更なし(6つの施策群)

4-3 施策の方向性と施策群

⇒現行ビジョンからの変更なし

4-4 施策の体系

⇒6つの施策群を構成する14のプロジェクト

第1章、第2章を踏まえて、現行ビジョンのプロジェクトを見直し及び再編または新規プロジェクトを設定し、14のプロジェクトとして編成

第5章 ビジョン実現に向けて

5-1 各主体の役割

⇒町や町民、事業者等の役割を追記

5-2 ビジョン推進体制

⇒ビジョンの実働部隊となる「(仮)美浜町エネルギービジョン実行部会」の設立を記載

5-3 ビジョン進捗管理

⇒現行ビジョンからの変更なし

第1章 エネルギービジョン改定の趣旨

1-1 ビジョン策定の背景と目的

1-2 ビジョン改定の背景（新規）

世界

- 世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をする【2℃目標】（パリ協定）(2015.12)
- 脱炭素化に向けた取り組みが加速（化石燃料からの脱却）
- SDGs「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に提示された目標（17ゴール、169ターゲット）(2015.9)
- ESG投資の広まり、脱炭素技術への投資拡大の可能性



日本

- 菅首相「2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロ(2050年カーボンニュートラル)を目指す」(2020.10)
- 脱炭素社会の実現に向けた取り組みを強力に推進し、電力部門の脱炭素化を目指した「グリーン成長戦略」を策定(2020.12)。
- 2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする目標を盛り込んだ「地球温暖化対策推進法改正案」を閣議決定(2021.3)。
- ゼロカーボンシティ宣言…348自治体(2021.3時点)。町としてゼロカーボンシティの表明に向けた施策の導出が必要。
- 「地域循環共生圏」の創造(第五次環境基本計画)
- 再生可能エネルギーを主力電源と位置付け。将来の二次エネルギーとして水素を追加。(第5次エネルギー基本計画)
- 近年発生する自然災害に対し、レジリエント(柔軟的)なエネルギー供給基盤の確保が課題。

周辺自治体

- 原子力をはじめ再生可能エネルギーを含む様々なエネルギーを活用した地域経済の活性化やまちづくりを目指し、人・企業・技術・資金(投資)が集まるエリアを形成（嶺南Eコースト計画 福井県）
- 敦賀を中心とする新たなエネルギーのサプライチェーンを構築(ハーモニアスポリス構想「調和型水素社会形成計画」敦賀市)

1-3 ビジョン改定の目的（新規）

- 国内外において、国家～民間企業レベルで脱炭素化に向けた取り組みが加速しており、その一挙手一投足が注目されており、経済活動にも影響を与えている。
- 日本で排出している温室効果ガスのうち、エネルギー起源によるものは80%以上を占めており、エネルギーの脱炭素化は急務である。
- エネルギーを取り巻く国内外の急激な変化に遅れずに適応し、再生可能エネルギーの取り組みをより積極的に推進するとともに、美浜町の発展につなげていくため、本ビジョンを改定する。
- 再エネの活用促進を通じて、国が進める「2050年カーボンニュートラル」の実現に貢献する。

1-4 ビジョンの位置づけ、計画期間、目標値

位置づけ

- 「美浜町環境基本計画」並びに「美浜町地球温暖化対策実行計画」との整合性を図り、第5次美浜町総合振興計画(後期計画)や、嶺南Eコースト計画等の県の計画等との連携を図りながら進めていく。
- エネルギーは多様な分野と関わるため、他分野と連携し、エネルギー面から地域課題の解決に取り組む。

計画期間

- 2021年度～2030年度

目標値

- 2030年度のCO₂排出量を2013年度比で25%削減（美浜町地球温暖化対策実行計画と整合性を図る）

1-5 ビジョン改定の方向性

- 再生可能エネルギーの取り組みをより一層積極的に推進する。
- 各プロジェクトの内容に焦点を絞り変更する。

第2章 美浜町の現状と課題

2-1 美浜町の特性・強み

(1) エネルギーのパイオニア

- ・耳川水力発電は、大正6年に運転開始され、現在に至るまで電力を供給し続けている。
- ・美浜発電所は、国内初の商業用加圧水型軽水炉であり、半世紀以上にわたって日本の原子力事業を支えてきた。



(2) 海から山までの豊かな自然

- ・国定公園の若狭湾に面し、リアス式海岸を有する。
- ・町域の8割以上が山林部からなる。
- ・水晶浜を始めとする海水浴場、名勝三方五湖、耳川など。



(3) 交通網の発展

- ・舞鶴若狭自動車道が全線開通し、若狭美浜インターチェンジが供用開始(2014年)。現在、4車線化に向けた計画が進行中。
- ・令和6年春に北陸新幹線敦賀開業が予定されている。
- ・さらに、美浜町・琵琶湖北西地域道路の計画も検討されている。

(4) エネルギー・環境関連教育の基盤 (新規)

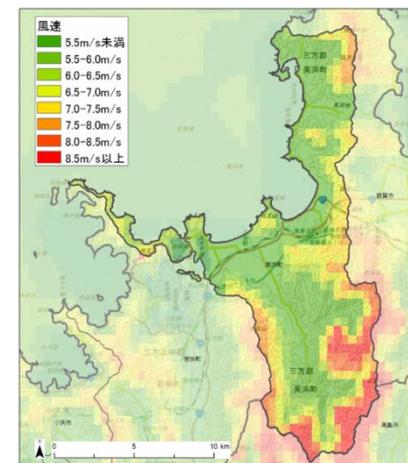
- ・2020年12月に、嶺南地域のエネルギー関連施設(22施設)が資源エネルギー庁の「次世代エネルギーパーク」に認定された。【登録された町内施設(5施設)】

- ①美浜町エネルギー環境教育体験館 きいぱす
- ②VPP・シェアEV実証ステーション
- ③若狭美浜インター産業団地 太陽光発電所
- ④福井県園芸体験施設 園芸LABOの丘
- ⑤美浜原子力PRセンター



(5) 再生可能エネルギー賦存量・導入可能性量

- ・山間部の新庄地区では南北方向の卓越風が吹き、風況に恵まれている。
- ・太陽光発電以外に、小水力や木質バイオマスのポテンシャルもある。



第2章 美浜町の現状と課題

2-2 美浜町の課題と課題解決に向けた取り組み

(1) 廃炉に伴うエネルギー・産業構造の転換

- 美浜発電所1号機・2号機の廃炉に伴い、町の収入減少が見込まれる。
- 建設業やサービス業は、間接的に廃炉の影響を受ける可能性がある。



【美浜原発の運転状況】

号機	定格出力	運転状況
1号機	34.0万kW	2015年4月27日運転終了
2号機	50.0万kW	2015年4月27日運転終了
3号機	82.6万kW	2011年5月14日～定期検査中

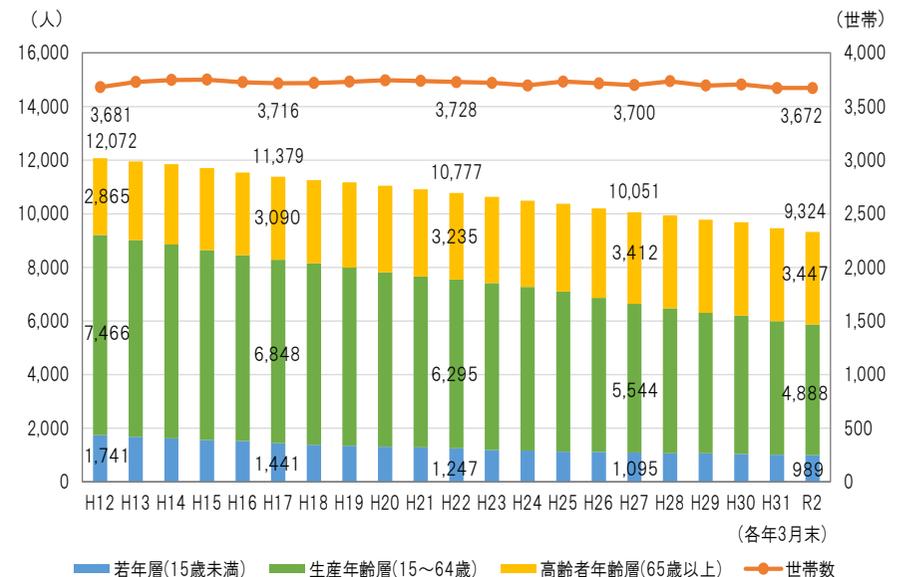
(3) 地理特性を踏まえた地域間連携

- 町内の旧小学校区では、ほとんどの地区で老年人口及び老年人口割合が多くなっているが、中には若年層や20歳代の割合が相対的に多い地区もあり、住民特性に合わせた施策展開が求められる。
- 森林保全が進み間伐材の搬出が進んでいる地域や小水力発電の可能性調査が進められている地域など、地域特性を活かした資源の有効活用を進めることが期待される。

(2) 人口減少・少子高齢化対策、既存施設・空き家等の有効利用減築等

- 美浜町では人口減少の傾向が続いており、少子高齢化が福井県及び全国平均よりも進んでいる。
- 若年層(15歳未満)の人口もここ10年で20%近く減少している。
- 人口維持や少子高齢化対策にあわせて、既存施設の減築・再利用・有効利用などの方策が求められている。

【美浜町の人口・世帯数の推移】



第2章 美浜町の現状と課題

2-3 これまでの主な取り組み（新規）

(1) きいばす等での展示設備の導入

- ① 追尾式太陽光発電設備 2基 96.8kW
(2017年度(H29年度)きいばす)
- ② EV用急速充電器 2基
(2017年度 きいばす、2018年度(H30年度) 役場)
- ③ EV 4台(2016・2020年度(H26・R2年度) きいばす、
2019・2020年度(R1・R2年度) 役場)
- ④ 蓄電池 1基 (2020年度 きいばす)
- ⑤ EVパワーステーション(V2H) 2台
(2020年度 きいばす)

(2) 太陽光LED街路灯の設置

- ① 役場周辺敷地 21基 (2016年度)
- ② 町道久々子・東レイク線 45基 (2017年度)
- ③ 美浜町総合運動公園 15基 (2017年度)

(3) 産業団地調整池への太陽光発電設置

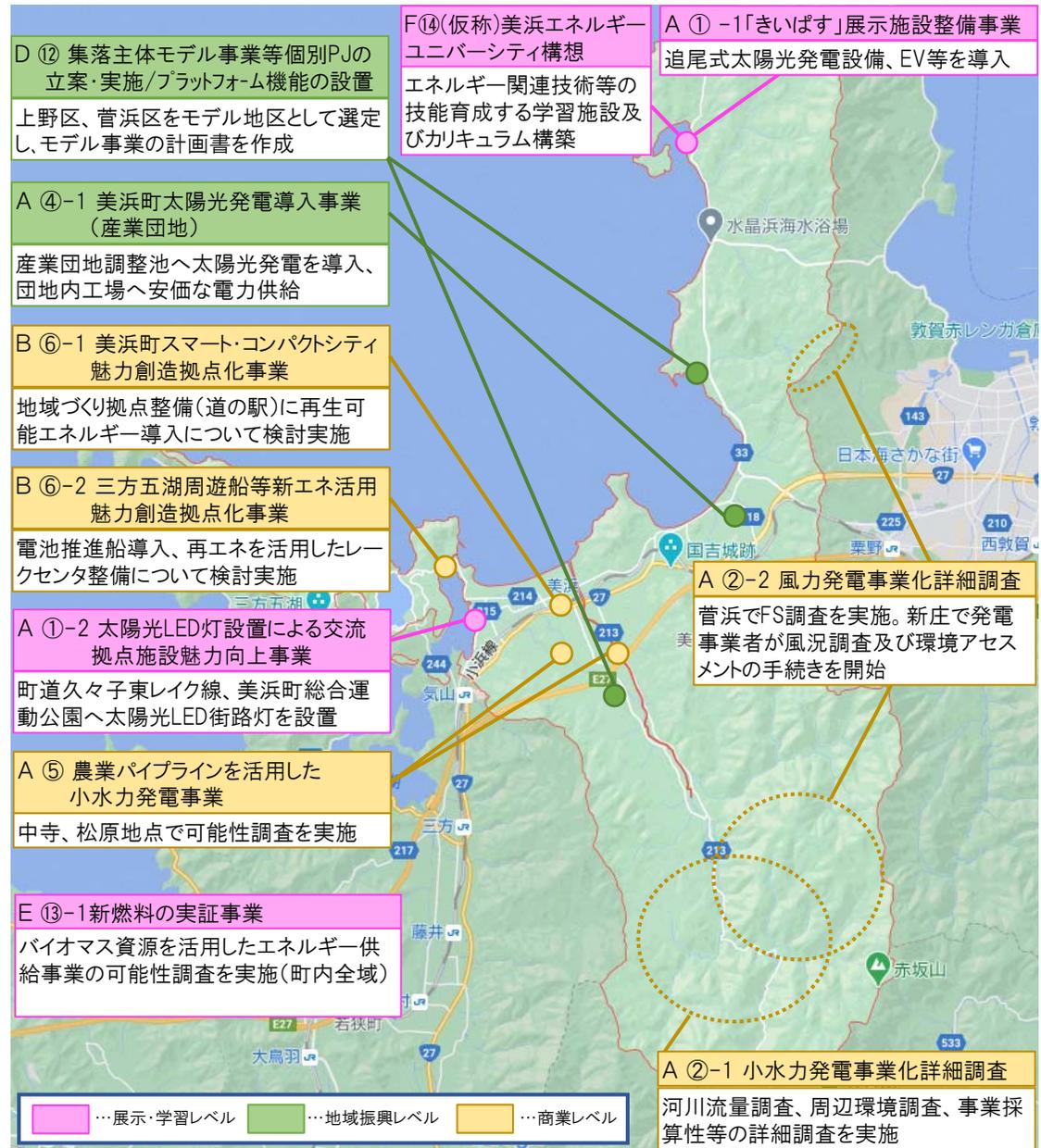
- ・若狭美浜インター産業団地 862.4kW(2019年度)
⇒団地内の工場へ電力供給を開始(2020年度～)

(4) 地域主導型再エネ活用に係るモデル地域の活動計画書を策定

- ・モデル地域として上野区、菅浜区を選定(2018年度)

(5) 電池推進実証船を開発・建造し、実証実験を実施

- ・三方五湖周遊船(電池推進船)運航に係る再エネ導入可能性調査を実施
- ・実証船のシステム開発・建造、実証実験を実施



第3章 美浜町が目指す姿

3-1 ビジョンのコンセプト

美浜町の特長・強みを活かしたエネルギーに関する取り組みを通して、地域の課題を解決へ導き、地域の持続性向上や町の振興・発展に貢献する。

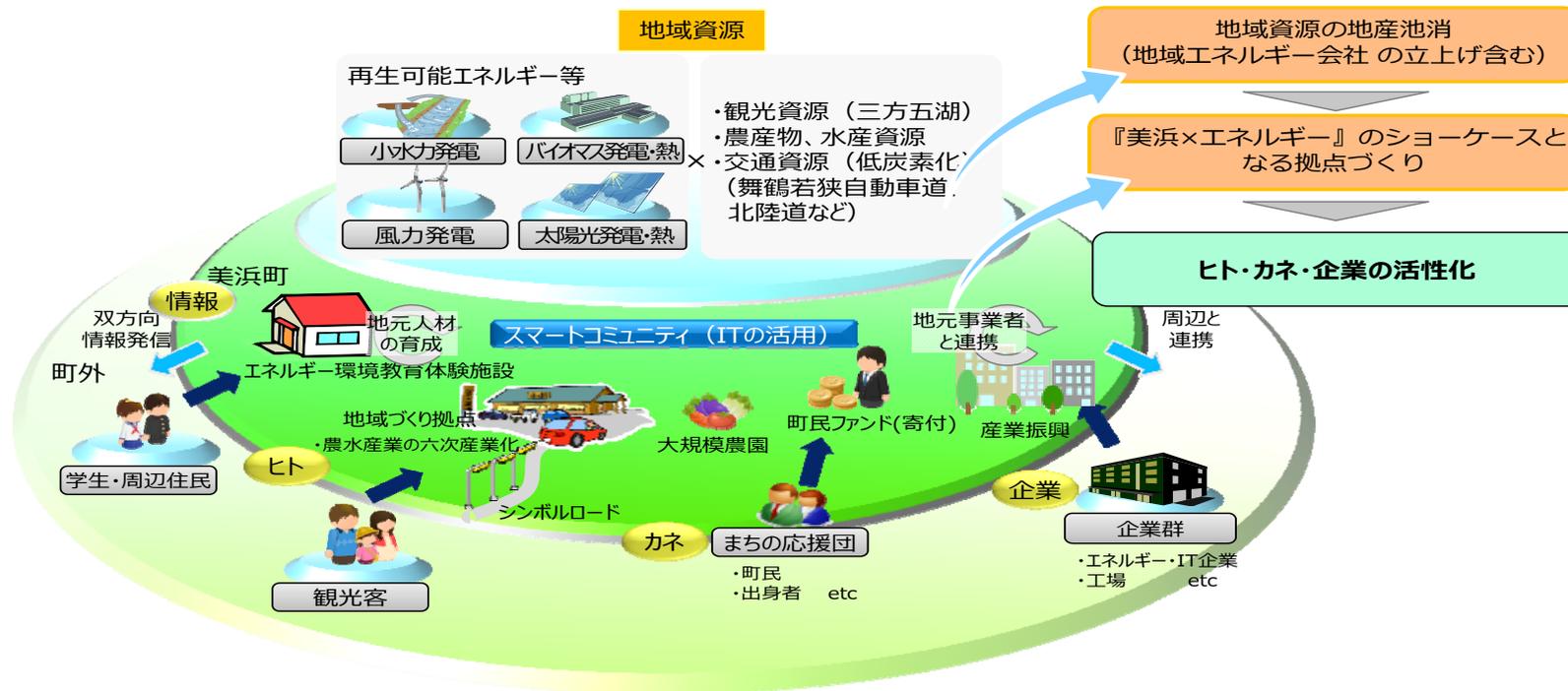
1. 外貨をかせぐ、人・企業を呼び込む
2. 取り組みを町内外へ情報発信・双方向のやりとりの実現へ
3. 地域資源を活用した域内経済循環の活性化

3-2 美浜町が目指す姿

美浜町の地域に根付いた再生可能エネルギーのほか、観光資源、農作物、交通資源といった地域が持つ資源を最大限活用し、美浜町の活性化や脱炭素化、安心・安全につながる拠点づくりを進める。

それら取り組みを町内外に対して「ショーケース」として活用し、美浜町に人、企業、資金を呼び込み、循環させる。

『美浜×エネルギー』のショーケースとなる次世代拠点づくり ⇒地域資源の地消による、ヒト・カネ・企業の活性化



第4章 2030年に向けた施策

4-1 施策の考え方

美浜町が目指す姿の実現に向けて、「エネルギー×まちづくり」の視点から施策の方向性を検討する。

1. ヒトを育て、呼び込む（啓発・情報発信、人材育成等）
2. 地域でお金をまわす（ファンド、リース、寄付モデル等）
3. 企業を元気にする（地元企業競争力強化、企業誘致等）
4. グリーンで効率的なインフラを整える（エネルギー・交通等）

4-2 施策の導出

第1章～第3章及び施策の方向性を受けて、前ビジョンの6つの施策群を継続する。

4-3 施策の方向性と施策群

6つの施策群と4つの施策の方向性の関係性から、1つの施策を実行することによって複数の施策の方向性に関する効果が期待できる。

4-4 施策の体系

近年のエネルギー・環境施策の動向や施策の進捗状況を踏まえ、施策の考え方と解決すべき地域課題等からプロジェクトを再編成した。

施策群	プロジェクト
A: グリーンで強靱なインフラ整備推進 ～再エネ等を効果的に活用しマチ、ヒト、企業の活力創出～	① 太陽光発電や蓄電池、EV等を導入、活用した低炭素、非常用対策、プロモーション推進プロジェクト
	② 風力発電、中小水力発電等による新産業創出プロジェクト
	③ 太陽光発電によるエネルギーの地産地消プロジェクト
	④ 美浜版MaaS構築プロジェクト
	⑤ 美浜町内エネルギー平準化プロジェクト
B: 地域のにぎわい創出 ～再エネ等を効果的に活用したヒトを呼び込む仕掛けづくり～	⑥ 再エネ等を活用した既存観光スポット、新たな集客施設の魅力づくり推進プロジェクト
	⑦ 美浜版エネルギーツーリズム推進プロジェクト
C: 地域コミュニティ再興 ～再エネ等を活用した住民主役の地域づくり～	⑧ 『Made by 美浜』による美浜スマートアグリプロジェクト
	⑨ スマートコミュニティ拠点整備プロジェクト
D: まちづくり推進母体による地域メリット見える化 ～地域の地域による地域のための多彩なサービスの展開～	⑩ みはまエネルギー基金創出プロジェクト
	⑪ 地域づくりアドバイザー派遣プロジェクト
	⑫ 「地域共助サービス事業体」による地域のための多彩なサービスの展開プロジェクト
E: 10年後を見据えたチャレンジ ～先進的エネルギー関連技術の積極的実証、誘致等による長期的地域メリットの創出～	⑬ 町の資源を活用した新燃料等製造・新技術開発研究プロジェクト
F: 30年後を見据えた人材育成 ～エネルギー関連の技術習得等による将来の美浜を支える人材の育成～	⑭ 未来のエネルギー・環境分野を担う人材育成プロジェクト

第5章 ビジョン実現に向けて

5-1 各主体の役割（新規）

本ビジョンを推進していくには、町民、事業者、行政等の各主体が、エネルギーや環境に対して関心と正しい認識を持ち、立場に応じた事項に取り組むと同時に、各主体が連携して取り組んでいく必要があります。

主体	役割
町民	一人ひとりが、エネルギーや環境に対して興味・関心を持ち、理解を深め、身近なエネルギー・環境に関する取り組みを実行する。
各種団体・教育機関等	専門性を活かしたエネルギー・環境に関する情報発信や普及啓発、活動支援、調査研究を行う。
事業者	事業活動や製品・サービスにおいて、エネルギー・環境に関する取り組み、技術・システムの開発・提供を行う。
美浜町	行政として率先的にエネルギー・環境に関する取り組みを行う。各主体の調整・支援、情報発信を行う。

5-3 ビジョン進捗管理

本ビジョンの進捗管理は、PDCAサイクルによって行います。本ビジョンの目標は2030年度ですが、毎年度、プロジェクトの進捗確認、評価、見直しを行います。プロジェクトを実行するのみでなく、より良い取り組みとするため、継続的に改善していきます。



※PDCAサイクル…Plan(計画)→Do(実行)→Check(点検・評価)→Action(見直し)

5-2 ビジョン推進体制

本ビジョンの実効性を高めるためには、美浜町の他の関連計画や関連政策・施策と連携を図りながら、定期的かつ継続的に進捗を管理していく体制が必要です。

■ 美浜町エネルギービジョン推進委員会

学識経験者、有識者、民間事業者、関連行政機関等から構成され、プロジェクトの進捗状況、評価、見直しに関する報告を受け、助言等を行います。

■ (仮)美浜町エネルギービジョン実行部会

庁内の各プロジェクト担当者から構成されるビジョンの実働部隊です。プロジェクトの進捗管理、計画の見直し、事業実施主体の支援・調整等を行います。

